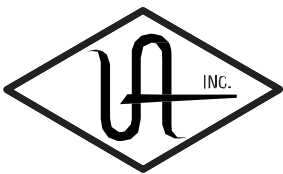


# Distortion Essentials プラグイン・バンドル マニュアル



UNIVERSAL AUDIO

Universal Audio, Inc.  
4585 Scotts Valley Drive  
Scotts Valley, CA 95066-4517  
[www.uaudio.com](http://www.uaudio.com)

Customer Support  
USA (toll-free): 1-877-698-2834  
International: +1-831-440-1176

# Bermuda Triangle

## キングオブ・ファズディストーション

クラシックなファズ/ディストーションは、Electro-Harmonix Big Muff は最高のコントロールというのは紛れありません。格付けや時代の流行りとは無関係のストンプボックス、ビンテージの Big Muffs は、パワフルで太いサスティンとアグレッシブなアタック、そして強烈なサウンドの個性を持っています。

70年代初期の Big Muff “トライアングル”バージョンにインスパイアを受け、Bermuda Triangle プラグインは、40年以上に渡り多くのレコードに収録された伝説とも言えるペダルボードを飾った強烈で悪魔のようなファズ・サウンドを提供します。

### 特徴:

- Apollo Twin、DUO、QUAD で、Electro-Harmonix Big Muff の忠実なエミュレーションを使用してトラック
- David Gilmour、Jack White、Dan Auerbach が使用しているものと同じペダルのバイオリンのようなサスティンと分厚いファズ・サウンド
- UAD-2 ハードウェアを使用してミックスダウン時にギター、シンセ、ドラム、ボーカルにカラフルなディストーション/ファズ・テクスチャーを追加
- Apollo Twin、DUO、QUAD 上で Unison テクノロジーを使用して ゲインレンジ、やクリップポイントなど、回路の相互作用を得ることができます。

## Muff の台頭

70年代全体を通じたクラシック・トラックに使用された Big Muff は、Isley Brothers の“Who’s That Lady (Part 1)” Carpenters の“Goodbye to Love”などで荒れ狂う Big Muff をフィーチャーしたサウンドを聴くことができます。

Pink Floyd の David Gilmour は、1976年のアルバム“Animals”で Big Muff を使い始め、最終的には、“Wall”の“Comfortably Numb”で叙情的なサスティンを表現するためにペダルを使用しています。Adrian Belew のようなサウンドの異端児には、ストラトキャスターから動物の声を再現するために Muff に頼っていました。

Bermuda Triangle は、Electro-Harmonix Big Muff の商標を持ついかなる会社からもエンドース、スポンサードも得ていません。Bermuda Triangle という名称は、単純に Universal Audio の製品がエミュレートしているエフェクトを確認するだけに使用されます。

そして 90 年代には、Smashing Pumpkins の Billy Corgan と Dinosaur Jr. は、パンチがあり、効果的なリフを弾くために Big Muff を多用していました。さらに近年では、Jack White and the Black Keys の Dan Auerbach のディストーション・サウンドに Big Muff を愛用しています。

#### ファズの忠実な エミュレーション

Bermuda Triangle プラグインは、オリジナルの Big Muff の巨大なサウンド、低域のレスポンス、リッチでざらついたサウンド・キャラクターをキャプチャーします。シンプルなボリューム、トーン、サスティン・コントロールは、簡単に直感的に操作してシングルコイル、ハムバッカーを搭載したギターに強烈なサウンドを提供します。

#### トライアングル・トーン

バイオリンのようなリードサウンドから、激しい低音のリフまで Bermuda Triangle プラグインは、オリジナルのビンテージ・ユニットのようなファジーなサウンドをお届けします。強烈なサチュレーションからカラフルなクリッピングまで Bermuda Triangle は、プレイヤーのタッチやピッキングアタックのレンジに対し、ハードウェアのようにレスポンスします。

#### Unison Technology トーン、タッチ、フィー リングの鍵

楽器とシグナルチェーン内の最初のペダルの相互作用は、ストンプボックスの持つ独特なキャラクターやトーンをキャプチャーすることで重要な成分です。Universal Audio の Unison<sup>®</sup> テクノロジーを活用して Apollo Twin、DUO、QUAD に接続するとビンテージの Big Muff と同じ回路の相互作用、ゲインレンジやクリップポイントを提供します。これは、オリジナルのハードウェアと同じ、本物のトーン、フィーリング、レスポンスを提供します。

#### 様々なソース に対応

Bermuda Triangle の象徴的なサウンドはギターだけでなく、ベース、ドラム、ボーカルやその他のお楽器にも最適です。激しい歪みのバスドラムやボーカルやシンセにエッジを加えたりすることができます。そして、オリジナル・ハードウェアのがっちりしたローエンドのレスポンスなど Bermuda Triangle ならではのサウンドはベースにとっても理想的なファズ/ディストーション・ツールです。

## Bermuda Triangle スクリーンショット



図 14 Bermuda Triangle プラグイン・ウィンドウ

## Bermuda Triangle を使用する

### 標準的な DAW インサートでの使用

ミックスエンジニアがストンプボックスを使用してレコーディングする時と同じように Bermuda Triangle は DAW のインサートスロットにプラグインを立ち上げることで、そのソースへエフェクトを加える事ができます。一般的なギターサウンドの場合、(ハードウェアのペダルとギターアンプの接続と同じように)ペダルの後にギターアンプ・シミュレーターを接続してください。

プラグインは、オリジナルのハードウェアのハイ・インピーダンス動作レベルを正確にモデリングしているので、不要なインプット・クリッピングを避けるために注意が必要になる場合があります。

**注:** Hi-Z デバイスは、ラインレベルのデバイスよりも低いシグナルレベルで動作するので、ペダルを経由しているシグナルレベルは、不要なインプット・ディストーションをさけるために下げる必要があります。

### Apollo の Unison™ テクノロジー



Bermuda Triangle は、Universal Audio の Apollo オーディオインターフェイスのハイインピーダンス・インプットと統合した Unison テクノロジーを採用しています。Unison を使用すると、Apollo の Hi-Z インプットは、オリジナルのギターペダル独自の回路の相互作用をすべて受け継ぎ、ゲインレンジやクリップポイントをオリジナルのギターペダルのすべてを再現します。

#### Hi-Z シグナルルーティング

もっとも本格的なストンプボックスのサウンドは、Apollo の Hi-Z インプットにお好みのハイ・インピーダンス楽器(ギター、ベース等)を接続し、ペダルプラグインを Apollo の Console アプリケーション内の同じチャンネル上の Unison インプットにインサートしてください。必要に応じて、Unison ペダルプラグインの後に Console の標準的なインサート・スロットにもう一つのペダル、またはギターアンプ・シミュレーターをインサートしてください。

この Hi-Z のワークフローは、オリジナルのペダルと同じインプット・キャラクターと、ダイナミックレスポンスをほぼゼロのレイテンシでモニタリング、レコーディングすることができます。

**注:** このプラグインは、Apollo のマイク、ライン・インプットで Unison テクノロジーを適用することができます。しかし、オリジナルのハードウェアはハイインピーダンス・インプットに対応した設計になっているので、Apollo の Hi-Z にインサートして使用すると、もっともハードウェア・ペダルを正確に再現します。

**重要:** ペダルプラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z インプットで使用できるインプット・インサートで使用される場合에만 Unison がアクティブです。Unison の詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルを参照してください。

## タテカル・コントロール

Apollo のフロントパネルのプリアンプ・ノブは、Unison ペダル・プラグイン内で使用できるゲインステージ・モードによって独立してボリューム、サステイン、アウトプット・コントロールを調節することができます。調節するコントロールは、Apollo を使用してリモートコントロールでき、レベルのコントロールとそれに関連するカラーリングは、プラグインのインターフェイスを使用せずにハードウェア・ノブによって正確に物理的で触覚的なコントロールを行なうことができます。

## Bermuda Triangle のコントロール

### Sustain



サステインは、シグナルのオーバードライブ量を変化させます。歪みやサステインを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。

### Volume

ボリュームは、モデリングしたペダルのアウトプット・レベルを調整します。ボリュームを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。



### Tone



トーンは、シグナルの高周波数成分を調整します。フィルター量を増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。これは、高域コンテンツを減少させます。

### Power

プラグインのオン/オフをスイッチします。電源状態を切り替えるにはスイッチをクリックしてください。

オリジナルのハードウェアと同様にトゥルーバイパス・コントロール無効にするとシグナルは回路による着色を受けません。



**ヒント:** UA のダイヤモンド・ロゴをクリックしてもオン/オフを切り替えることができます。

### Output



このコントロールは、プラグインの(モデリングしていない)クリーンなゲインをコントロールします。設定可能な範囲は、-24 dB ~ +12 dB までです。

**ヒント:** “0”ラベルをクリックすると設定値をゼロに戻すことができます。

# Ibanez Tube Screamer TS808

## もっとも象徴的なオーバードライブ・ペダルを再現

1979年に発売された Ibanez Tube Screamer TS808 オーバードライブ・ペダルは、ダイナミックでタッチセンシティブな歪みとハスキーなミッドレンジが象徴的なサウンドが人気となりました。Stevie Ray Vaughan、Eric Johnson、Brad Paisley、Trey Anastasio、Joe Bonamassa らのペダルボードの主力としてギタリストの神聖な場所を占めてきました。

Ibanez Tube Screamer は多くのエフェクトに影響を与え、オリジナルのビンテージユニットは正気では考えられないほどの価格が付けられています。そして今、UAD-2 や、Apollo インターフェイスを使用して Ibanez からライセンスを受けた TS808 エミュレーションによって Ibanez Tube Screamer TS808 を使用することができます。

### 特徴：

- Apollo Twin、DUO、QUAD で、Ibanez Tube Screamer TS808 の忠実なエミュレーションを使用してトラックング
- UAD-2 ハードウェアを使用してミックスダウン時にギター、シンセ、ドラム、ボーカルにカラフルなディストーションを追加
- Apollo Twin、DUO、QUAD 上で Unison テクノロジーを使用して ゲインレンジ、やクリップポイントなどオリジナルの回路の相互作用を得ることができます。
- すでにインサートされ、オーバードライブしているアンプシミュレーターの前に TS808 プラグインを使用して、サウンドにボディとサステインを加える事ができます。

### ダイナミックなディストーション

UAD-2 と Apollo で使用できる Ibanez Tube Screamer TS808 はビンテージ・グラインドマシンのすべてをトラックング、ミックスダウンにギタリストに与えることができます。このキーポイントは、プレー中のダイナミクスや、明快さ、レスポンスを提供するためにオリジナルのサーキットの持つ、クリーンな入力信号と TS808 のクリッパー・サーキットのアウトプット実際にミックスする点です。

熱いソロにも繊  
細なリズムワー  
クにも最適

どんなタイプのギターを使用していても TS808 プラグインはそのキャラクターでギターのトーンを変えることができます。ギターの弦の分離を良くし、コードが美しく鳴り響くようにしたり、レベルを上げることで TS808 の伝説的なクリーミーで歌うようなミッドレンジを実現させます。そして Keith Richards のようなどっしりしたリズムサウンドに TS808 プラグインを使用することもできます。

Unison Technology  
トーン、タッチ、フ  
ィーリングの饒

楽器とシグナルチェーン内の最初のペダルの相互作用は、ストンプボックスの持つ独特なキャラクターやトーンをキャプチャすることで重要な成分です。Universal Audio の Unison 'テクノロジーを活用して Apollo Twin、DUO、QUAD に接続するとビンテージの Big Muff と同じ回路の相互作用、ゲインレンジやクリップポイントを提供します。これは、オリジナルのハードウェアと同じ、本物のトーン、フィーリング、レスポンスを提供します

トラッキング、ミ  
ックス時に不可欠  
なトーンマシン

クリエイティブなプロデューサーやエンジニアは、無数の方法で Ibanez TS808 を使用しています。プロデューサー/エンジニアの Andy Sneap (Megadeth、Kreator、Exodus) は低域のレスポンス向上や、エッジを増すためにアンプの前に TS808 を繋ぎ、Joe Barresi (The Melvins、Tool、Weezer、Bad Religion) は、質感やトラッキングしたギター、シンセ、ドラム、ボーカルに歪みを加えるためにミックスダウン時に TS808 を使用しています。UAD-2 と Apollo で使用できる Ibanez Tube Screamer TS808 プラグインは、DAW 上で同じことを行なうことができます。



## Ibanez Tube Screamer スクリーンショット



図 60. Ibanez Tube Screamer TS808 プラグイン・ウィンドウ

## Ibanez Tube Screamer を使用する

### 標準的な DAW インサートでの使 用

ミックスエンジニアがストンプボックスを使用してレコーディングする時と同じように Ibanez Tube Screamer は DAW のインサートスロットにプラグインを立ち上げることで、そのソースへエフェクトを加える事ができます。一般的なギターサウンドの場合、(ハードウェアのペダルとギターアンプの接続と同じように)ペダルの後にギターアンプ・シミュレーターを接続してください。

プラグインは、オリジナルのハードウェアのハイ・インピーダンス動作レベルを正確にモデリングしているため、不要なインプット・クリッピングを避けるために注意が必要になる場合があります。

**注:** Hi-Z デバイスは、ラインレベルのデバイスよりも低いシグナルレベルで動作するので、ペダルを経由しているシグナルレベルは、不要なインプット・ディストーションをさけるために下げる必要があります。

### Apollo の Unison™ テクノロジー



Ibanez Tube Screamer は、Universal Audio の Apollo オーディオインターフェイスのハイインピーダンス・インプットと統合した Unison テクノロジーを採用しています。Unison を使用すると、Apollo の Hi-Z インプットは、オリジナルのギターペダル独自の回路の相互作用をすべて受け継ぎ、ゲインレンジやクリップポイントをオリジナルのギターペダルのすべてを再現します。

#### Hi-Zシグナルルーティング

もっとも本格的なストンプボックスのサウンドは、Apollo の Hi-Z インプットにお好みのハイ・インピーダンス楽器(ギター、ベース等)を接続し、ペダルプラグインを Apollo の Console アプリケーション内の同じチャンネル上の Unison インプットにインサートしてください。必要に応じて、Unison ペダルプラグインの後に Console の標準的なインサート・スロットにもう一つのペダル、またはギターアンプ・シミュレーターをインサートしてください。

この Hi-Z のワークフローは、オリジナルのペダルと同じインプット・キャラクターと、ダイナミックレスポンスをほぼゼロのレイテンシでモニタリング、レコーディングすることができます。

**注:** このプラグインは、Apollo のマイク、ライン・インプットで Unison テクノロジーを適用することができます。しかし、オリジナルのハードウェアはハイインピーダンス・インプットに対応した設計になっているので、Apollo の Hi-Z にインサートして使用すると、もっともハードウェア・ペダルを正確に再現します。

**重要:** ペダルプラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z インプットで使用できるインプット・インサートで使用される場合にのみ Unison がアクティブです。Unison の 詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルを参照してください。

## タクトイカル・コントロール

Apollo のフロントパネルのプリアンプ・ノブは、Unison ペダル・プラグイン内で使用できるゲインステージ・モードによって独立してボリューム、サスティン、アウトプット・コントロールを調節することができます。調節するコントロールは、Apollo を使用してリモートコントロールでき、レベルのコントロールとそれに関連するカラーリングは、プラグインのインターフェイスを使用せずにハードウェア・ノブによって正確に物理的で触覚的なコントロールを行なうことができます。

## Ibanez Tube Screamer のコントロール

### Overdrive



オーバードライブは、シグナルのオーバードライブ量を変化させます。歪みやサスティンを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。

### Tone

トーンは、シグナルの高周波数成分を調整します。フィルター量減少させるにはコントロールを右回りに回転させてください。これは、高域コンテンツを増加させます。



### Level



レベルは、モデリングしたペダルのアウトプット・レベルを調整します。ボリュームを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。

### Bypass

フットスイッチは、エフェクトの状態を切替えます。エフェクトがアクティブになると、トーンノブの上の LED が点灯します。



オリジナルのハードウェアと同様にこれはトゥルーバイパスではありません。エフェクトがオフになっていてもシグナルは回路の影響を受けています。

**ヒント:** トゥルーバイパスにする場合は、UA ダイヤモンド・ロゴをクリックしてください。

### Output



プラグインの(モデリングしていない)クリーンなゲインをコントロールします。設定可能な範囲は、-24 dB ~ +12 dB までです。

**ヒント:** "0"ラベルをクリックすると設定値をゼロに戻すことができます。

## Power

UA ダイヤモンド・ロゴは、プラグインのオン/オフ(トゥルーバイパス)を切替えます。電源の状態を切り替えるには、スイッチをクリックしてください。



電源がオフの場合、ダイヤモンド・ロゴは消灯し、外部電源ケーブルが外れます。



**ヒント:** 電源は外部電源ケーブルの画像をクリックして切り替えることもできます。



図 61. 電源ケーブルを抜くとトゥルーバイパス・モード

Ibanez Tube Screamer TS808 と Ibanez の商標の使用、すべての視覚と聴覚のリファレンスは Ibanez より書面による許諾を得ています。

# Raw Distortion

## クラシック・グランドディストーション

ウォームなオーバードライブとダーティなグランド・サウンドは、Pro Co Rat ディストーション・ペダルは、70年代後期以来、無数のギタリストの必須アイテムとなっています。Jeff Beck、John Scofield、Thom Yorke、Graham Coxon など多くのプレーヤーは、Rat のトータルレンジ、スムーズさ、膨大なゲインレンジを好んで使用しています。

1980年代初期のビンテージ Pro Co Rat をモデリングし、UAD-2 と Apollo で使用できる Raw Distortion プラグインは、オリジナルのハードウェアが持つ、荒々しさ、ダイナミクスなどのすべてを提供する伝説のディストーション・ノックスの忠実なエミュレーションです。

### 特徴:

- Apollo Twin、DUO、QUAD で、Pro Co Rat の忠実なエミュレーションを使用してトラック
- Jeff Beck、Johnny Greenwood、Joe Walsh らが使用しているのと同じペダルの繊細なサウンドから分厚いサチュレーションサウンドまでを再現
- UAD-2 ハードウェアを使用してミックスダウン時にギター、シンセ、ドラム、ボーカルにカラフルなディストーションを追加
- Apollo Twin、DUO、QUAD 上で Unison テクノロジーを使用して ゲインレンジ、ヤクリップポイントなどオリジナルの回路の相互作用を得ることができます。

### Trapping Raw for a Faithful Emulation

UAD-2 と Apollo インターフェイスで使用できる Raw Distortion プラグインは、オリジナル・ハードウェアのシングル・オペアンプサーキットと同様に有名なパッシブトーン・フィルターをキャプチャーしています。また、ハムバッカーを搭載したギターをミックスの中で際立たせるようにスライスを与えたり、シングルコイルにチューブのような暖かさを加えたりする強力なトーン・コントロールは Rat の心臓部です。

Raw Distortion は、現在 Pro Co Rat の名称を所有している企業と提携、スポンサー、エンドース関係はありません。Raw Distortion 名は、Universal Audio のプロダクトのエミュレーションにより生み出されるクラシック・エフェクトを識別する目的でのみ使用されます。

繊細なゲインから  
激しいディストーションまで

UAD-2 と Apollo で使用可能な Raw は、オリジナルの Rat と同様にコード・サウンドに完璧で繊細なタッチを与えたり、すべてを壊すような激しいサチュレーションやディストーションを再現することができます。この多様さは、プラグインしたギターサウンドに豊かなオプションを与えることができます。

Unison Technology  
トーン、タッチ、フィーリングの鍵

楽器とシグナルチェーン内の最初のペダルの相互作用は、ストンプボックスの持つ独特なキャラクターやトーンをキャプチャすることで重要な成分です。Universal Audio の Unison 'テクノロジーを活用して Apollo Twin、DUO、QUAD に接続するとビンテージの Big Muff と同じ回路の相互作用、ゲインレンジやクリップポイントを提供します。これは、オリジナルのハードウェアと同じ、本物のトーン、フィーリング、レスポンスを提供します。

様々なソースに  
Raw を使用する

Raw Distortion の象徴的なサウンドはギターだけでなく、ベース、ドラム、ボーカルのスカルプティング・ツールとしても最適です。ボーカルや弦楽器や埋もれているドラム・バスにエッジや溶けるような歪みを与えることができます。

## Raw Distortion スクリーンショット



図 128. Raw Distortion プラグイン・ウィンドウ

## Raw を使用する

### 標準的な DAW インサートでの使用

ミックスエンジニアがストンプボックスを使用してレコーディングする時と同じように Raw Distortion は DAW のインサートスロットにプラグインを立ち上げることで、そのソースへエフェクトを加える事ができます。一般的なギターサウンドの場合、(ハードウェアのペダルとギターアンプの接続と同じように)ペダルの後にギターアンプ・シミュレーターを接続してください。

プラグインは、オリジナルのハードウェアのハイ・インピーダンス動作レベルを正確にモデリングしているため、不要な入力・クリッピングを避けるために注意が必要になる場合があります。

**注:** Hi-Z デバイスは、ラインレベルのデバイスよりも低いシグナルレベルで動作するので、ペダルを経由しているシグナルレベルは、不要な入力・ディストーションをさけるために下げる必要があります。

### Apollo の Unison™ テクノロジー



Raw は、Universal Audio の Apollo オーディオインターフェイスのハイインピーダンス・入力と統合した Unison テクノロジーを採用しています。

Unison を使用すると、Apollo の Hi-Z 入力は、オリジナルのギターペダル独自の回路の相互作用をすべて受け継ぎ、ゲインレンジやクリップポイントをオリジナルのギターペダルのすべてを再現します。

### Hi-Z シグナルルーティング

もっとも本格的なストンプボックスのサウンドは、Apollo の Hi-Z 入力にお好みのハイ・インピーダンス楽器(ギター、ベース等)を接続し、ペダルプラグインを Apollo の Console アプリケーション内の同じチャンネル上の Unison 入力でインサートしてください。必要に応じて、Unison ペダルプラグインの後に Console の標準的なインサート・スロットにもう一つのペダル、またはギターアンプ・シミュレーターをインサートしてください。

この Hi-Z のワークフローは、オリジナルのペダルと同じ入力・キャラクターと、ダイナミックレスポンスをほぼゼロのレイテンシでモニタリング、レコーディングすることができます。

**注:** このプラグインは、Apollo のマイク、ライン・入力で Unison テクノロジーを適用することができます。しかし、オリジナルのハードウェアはハイインピーダンス・入力に対応した設計になっているので、Apollo の Hi-Z にインサートして使用すると、もっともハードウェア・ペダルを正確に再現します。

**重要:** ペダルプラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z 入力で使用できる入力・インサートで使用される場合にのみ Unison がアクティブです。Unison の 詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルを参照してください。

## タクトイカル・コントロール

Apollo のフロントパネルのプリアンプ・ノブは、Unison ペダル・プラグイン内で使用できるゲインステージ・モードによって独立してボリューム、サスティン、アウトプット・コントロールを調節することができます。調節するコントロールは、Apollo を使用してリモートコントロールでき、レベルのコントロールとそれに関連するカラーリングは、プラグインのインターフェイスを使用せずにハードウェア・ノブによって正確に物理的で触覚的なコントロールを行なうことができます。

## Raw のコントロール

### Distortion



ディストーションは、シグナルのオーバードライブ量を変化させます。歪みやサスティンを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。

### Filter

フィルターは、シグナルの高周波数成分を調整します。フィルター量増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。これは、高域コンテンツを減少させます。



### Volume



ボリュームは、モデリングしたペダルのアウトプット・レベルを調整します。ボリュームを増加させるにはコントロールを右回りに回転させてください。

### Power

プラグインのオン/オフをスイッチします。電源状態を切り替えるにはスイッチをクリックしてください。オリジナルのハードウェアと同様にトウルーバイパス・コントロールです。無効にするとシグナルは回路による着色を受けません。



**ヒント:** UA のダイヤモンド・ロゴをクリックしてもオン/オフを切り替えることができます。

### Output



プラグインの(モデリングしていない)クリーンなゲインをコントロールします。設定可能な範囲は、-24 dB ~ +12 dB までです。

**ヒント:** "0"ラベルをクリックすると設定値をゼロに戻すことができます。